

議員研修会 開催

テーマ 福岡空港は 移転か 増設か



国・県・市の担当者



議長挨拶



研修会 質議のようす



資料による説明のようす

活発な質議が行なわれる

福岡市に隣接する志免町にとって、空港問題は重要なテーマであり、議会としてしっかり精査する必要があるとの意味で研修会を開催した。

6月2日、国土交通省、福岡県、福岡市、空港調査委員会から講師を派遣して頂き、議員研修会を開催。

特に今回は、町内会長会、町職員にも参加を呼びかけた。

議長挨拶に始まり、その後PIレポートステップ3までの調査結果の説明を受けた。

この段階では、将来需要への対応方策として、

- ① 近隣空港との連携について
- ② 現空港における滑走路増設について
- ③ 新空港について

この3パターンでの検討がなされていった。

参加者から、社会環境の変更によって需要予想の変更はあるのか、ハブ空港としての考えて調査しているのか、近隣空港との連携について、空港周辺自治体でPIを行なっていくのか、移設した場合の個別収支について、地下鉄の存続について、また新空港の場合、漁業補償はどのくらいか、PIを行なう中、現空港を残すと言う人の割合はどのくらいか、などの質問が出された。

注1. PI（パブリックインボルブメント）
空港調査内容などの情報を積極的に提供し、意見を聞きながら、検討を進めて行く方法。



要望・陳情・請願・意見書

請願	請願者	内容	採決結果
教育予算の拡充を求める意見書提出に関する請願書	柚上 孝子	<ul style="list-style-type: none"> 義務教育費国庫負担制度について、国庫負担率を2分の1に復元し、制度を堅持する。 学校施設整備費、就学援助奨学金など教育予算充実のため、地方交付税を含む国の予算を拡充する。 人材を確保するため、教職員給与の財源確保・充実 	全員賛成で採択 国へ意見書を提出
「コミュニティのへや」設置に関する請願	松ヶ丘町内会 会長 安松迪雄 ほか	県営松ヶ丘団地に、介護予防や高齢者の生きがい事業など福祉環境の拠点となる「コミュニティのへや」の設置を強く要望する。	厚生委員会で継続審査

意見書	提出者	内容	採決結果
子宮頸がん予防ワクチンに関する意見書	助村 議員	<ul style="list-style-type: none"> 子宮頸がん予防ワクチンの早期承認 予防ワクチンが承認された後は、その推進を図るために接種への助成を行う。 	全員賛成で採択 国へ意見書を提出
後期高齢者医療制度の中止、撤回を求める	末藤 議員	後期高齢者医療制度をすみやかに凍結し、国民が安心できる医療制度を国民的な合意のもとでつくるよう、強く要請する。	賛成多数で採択 国へ意見書を提出

後期高齢者医療制度の中止、撤回を求める意見書に3人が討論!

賛成討論

牛房議員

4月にスタートして3ヵ月、制度上の問題が次々と噴出し、小手先の手直しや修正のみでは国民の信は得られない。

高齢者は、将来の医療や治療について不安や心配でいっぱいである。

戦後、焼け野原から裸一貫、経済大国の基盤をついた立役者である高齢者の願いは、血の通った制度にして欲しい。真に長寿を喜べる社会にして欲しいという願いのみ。

安心して最後のステージを迎えられる制度の構築を心から切望し、賛成意見とする。

反対討論

大西議員

廃止法案を出すなら対策を提示するべき、又高齢化が急速に進む中で先送りは断じて許されない。さらには、国民健康保険に戻す事によって地域で最大5倍の保険料の格差が生じる。

末藤議員

医療費削減を目的にして75才以上の高齢者を差別する事は許されない。後期高齢者制度を作った国は、世界のどこにもない。医療という人間の命に関わる問題で高齢者を差別する制度は一刻も続ける訳にはいかない。

又、この制度は存続すればする程、ますます痛みを高齢者と国民に押しつけ、あらゆる世代に負担増と医療切り捨てが押しつけられる。害悪ははかり知れないものがあり、制度の根本が間違っている以上、撤廃するしか解決の道はない。

臨時議会

5月8日 臨時議会を開催。

19年度老人保険特別会計補正予算

3月議会終了後、医療費の増加により現予算の不足が判明。歳入歳出に1,593万円を追加。

全員賛成

町税条例の一部を改正

地方税法を改正する法律が公布され、施行されるため町税条例の一部を改正。

賛成多数(賛成14・反対1)

国民健康保険条例の一部改正

後期高齢者支援金が新設され、それに伴い医療分の税率を改正。

賛成多数(賛成11・反対4)